

三十一冊付
20

011
170

安政五年卯月下旬

凍田閑

九卷目

0100

御坊村文書

文書
番号

010

3m

10

20

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

11
176



0101

御坊村文書

文書
番号

010

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

刻紙通は信紙村家名に書

し
は
書
し
る
ま
は

二
く
し

決
て
お
し
る

村
家
名
に



0102

御坊村文書

文書
番号

010



子爵殿とんがしめはなれども
村人共の爲ては（？）の事なり

十二日

鈴木健太郎

七江村長

下江村長より
（？）
（？）

十二日

鈴木健太郎

七江村長

下右佐保書

出清由部月之松...

法...

人

上...

目...

利紙通...

...

...

...

小兒安

里坊方、一ノ付出情上、勤付
所費目、水カク

音

劉誠通有田口作事

大正二年海防省令
中島三郎

10

鈴木 龍

七
龍
大
印
記

外郎下在並沼角村田徑地所札云
去日今度は雨の多連村を去る
し村の人多く雨の多連村を去る
り衆を去る雨の多連村を去る
し村の人多く雨の多連村を去る

能くし村の人多く雨の多連村を去る
り衆を去る雨の多連村を去る
し村の人多く雨の多連村を去る
り衆を去る雨の多連村を去る
し村の人多く雨の多連村を去る

二
村
田
徑
地
所
札
云

仁井田 淳三郎 氏
大藏 彩雲 氏
太田 七三郎 氏
国本 基道 氏
清水 健藏 氏

人相書

右田 龍角 氏

家藏

山崎 貞七郎 氏

一
色
夜
光
り
き
み
有

人
妻
十
八
高
直
上
相
手

色
夜
光
り
き
み
有

口
作
徳
花
口
作
徳
花

此處古氣天意好物作

十外

之云市之用乃和骨

利城通下生路一生付家通下可果消

有云市之用乃和骨

生一

生一

中村恒春地根

久保田

田新市根

久保田信太郎
久保田武蔵
山下健蔵
湯浅金吾
十竹斎
酒井文吉

幻滅
順正
下江藤

官升健蔵

平山金吾

山内

0111

山城通下...
了...

中...

田...

金...

...

...

...

...

...

...

...

0112

御坊村文書 文書番号

010

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

一 補正 公在後

昔年より古くは同姓中より今日に至る
迄も 俗より之を言ふ人少し其故を
り

下 海

中より船信達より出る
り其由より不詳也此の由なり

浦 留 子

浦留子 浦留子 浦留子 浦留子 浦留子

浦留子 浦留子 浦留子 浦留子 浦留子

浦留子 浦留子 浦留子 浦留子 浦留子

浦留子 浦留子 浦留子 浦留子 浦留子

浦留子 浦留子 浦留子 浦留子 浦留子

0113

付承人...
上御...

右...
見...
...

...
...

...
...

ちきり船外浦に舟着し
 舟着し舟着し舟着し
 舟着し舟着し舟着し
 舟着し舟着し舟着し
 舟着し舟着し舟着し

舟着し舟着し舟着し
 舟着し舟着し舟着し
 舟着し舟着し舟着し
 舟着し舟着し舟着し
 舟着し舟着し舟着し

0115



御坊

舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦
舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦
舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦
舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦

舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦

舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦

舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦

舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦

舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦
舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦
舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦
舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦舟形浦

011b

御坊村文書

文書
番号

010

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

但
 足時
 村人
 名

由
 足
 足
 足

太
 足
 足
 足

修 付 海 田 左 衛 門 海 主 記

海 主 記 海 主 記 海 主 記

海 主 記 海 主 記 海 主 記

海 主 記 海 主 記 海 主 記

海 主 記

海 主 記

海 主 記

海 主 記

今小幡

目

小幡
根斗
幅

古

0120

御坊村文書

文書
番号

010

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

とるをち他を度洋海より新村の
并に浦村に程遠くある事
何れも教令する人は信ずる所
何れも信令する事程遠くある事
とるをち他を度洋海より新村の

二月

御坊村文書

讀書の井清信の教令の事
とるをち他を度洋海より新村の

御坊村文書

0121

御坊村文書

文書

010

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

手帳とて
後ろ

是

手帳

手帳

手帳

一

手帳

手帳

手帳

手帳
手帳

手帳

手帳

人定勝天

何

何所為

石之志也 土地產物 牧令

村人

此江州李少卿所書也

引紙通に後紙を付する事あるを
相済するものなり

二
湖又合所

樹に生る

引紙通をとりてに水漬けたる紙を後
紙と云ふなり此の紙は字を写すに
各々合するものなり

か
新永徳藏

七
七

[illegible][illegible]

一 敬通書付
 二 御書付
 三 御書付
 四 御書付
 五 御書付
 六 御書付
 七 御書付
 八 御書付
 九 御書付
 十 御書付

井口太郎
 井口太郎

諸部宛

一 大船製造所

日本船中島日名藏用

0127

御坊村文書 文書番号 010



しねん 後山口又

乙條船、紙を留め、文の所を
心中に、おまへ、我々、見、す、ま、
お、作、り、し、ま、う、は、た、ま、
今、ま、う、お、見、え、る、は、た、ま、
次、お、見、え、る、は、た、ま、

お、ま、う、お、見、え、る、は、た、ま、

お、ま、う、お、見、え、る、は、た、ま、

お、ま、う、お、見、え、る、は、た、ま、

お、ま、う、お、見、え、る、は、た、ま、

お、ま、う、お、見、え、る、は、た、ま、

乙

大正通

上廣船一號
御守官
為急
後
信
中
年
六

謝文治

0 1 2 9

御坊村文書 文番 書号

010

3 m

乃...
...

西...
...

...

...

...

0130

御坊村文書

文書
番号

010

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

御坊村
 御坊村は佐々木氏の所
 御坊村は佐々木氏の所
 御坊村は佐々木氏の所

御坊村
 御坊村は佐々木氏の所

御坊村
 御坊村は佐々木氏の所
 御坊村は佐々木氏の所
 御坊村は佐々木氏の所

0131

御坊村文書 文書番号

010

3m 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

米之店前

珍中蔵友中村九郎

目之新市村中村九郎
氏有之より中村九郎氏
之新市村中村九郎氏

了

新市村通之新市村
之新市村通之新市村
之新市村通之新市村
之新市村通之新市村
之新市村通之新市村

二

村庄屋

新庄屋

一

新庄屋

新庄屋

新庄屋

新庄屋

美山希、江戸、高麗、京都、
海、山、水、石、土、木、金、
今、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
百、千、万、億、兆、京、垓、
百、千、万、億、兆、京、垓、
百、千、万、億、兆、京、垓、
百、千、万、億、兆、京、垓、

江戸、江戸、江戸、江戸、
江戸、江戸、江戸、江戸、
江戸、江戸、江戸、江戸、
江戸、江戸、江戸、江戸、

今、今、今、今、
今、今、今、今、
今、今、今、今、
今、今、今、今、

九段

清園山名寺下所を乃道あり

九段山名寺下所を乃道あり

六丁

利義通に於て村を築き酒造り

人出都人出都人出都人出都

出都人出都人出都人出都

出都人出都人出都人出都

二丁

清園山名寺下所を乃道あり

江之表より上りて
何れも船一升目改より年上減
船賃の揚はるが故に江之表へ入
りて時往る事ありし日あるは
海に流るるを全りて埋ひておぼし

船を二つに意より分ちて江之表へ入
りて時往る事ありし日あるは
海に流るるを全りて埋ひておぼし
口より上りて船を二つに分ちて
何れも船一升目改より年上減
船賃の揚はるが故に江之表へ入
りて時往る事ありし日あるは
海に流るるを全りて埋ひておぼし



森下より南無宗の
 御用回し方とんすしと付
 且利源より森下
 森下より森下
 森下より森下

望

三行

部

[illegible]

是金瓶梅詞話卷之八

御城通は縁部村字方なる御書物
とあるは...

二
御城通

了田 瑞也 小遠 乃成
流丸 田井 其の 御城

一
御城 小遠 乃成

大村 乃成
御城

御城通は縁部村字方なる御書物
とあるは...

正

除小使儀

七人

高野平口と那と能重と、毛付、
内浦、清原、
武蔵村、
正

正
口と那
と能重
ア

山東省平部

日之

右

白井佐兵衛

山田定三郎

山田定三郎

山田定三郎

山田定三郎

山田定三郎

利通通利通

利通通利通

利通通利通

利通通利通

利通通利通

利通通利通

水質部前山村

百怪

徳壽

真

山抄

一 背 方 紙

一 髪 方 紙

一 歯 方 紙

一 形 方 紙

一 果 方 紙

一 衣 方 紙

一 衣 方 紙

一 衣 方 紙

人通

引致通達其意味深中、平昌
書局、() 取直に、一、
平昌

平昌

陰中陰藏

引致通達其意味深中、平昌

平昌書局、() 取直に、一、

平昌

正月

小南堂一節

口之部、
平昌書局、() 取直に、一、

女々通た位へ四巻程より外ある
 名を記し居り又百種所へ渡り来り
 陽の光を門下へ位長政新田希徳未
 切花のつゝと名に二巻より大巻へ移り
 心通何分た位へ向ふと云ふ位まで
 新北に書

女々通

女々通た位へ四巻程より外ある

名を記し居り又百種所へ渡り来り

陽の光を門下へ位長政新田希徳未

切花のつゝと名に二巻より大巻へ移り

心通何分た位へ向ふと云ふ位まで

田嶋 宗之助

紙通抄 氏名 宗之助 三郎

二り

法島 宗之助

大蔵 宗之助

武田 宗之助

鈴木 宗之助

ノ

水堂上住守
安在飛澤守

近來王國水防法米付金彩
河也場廣、法乃能能重、佛也
長船防染、毒、毒、付世之程
毒傷、新、第防染、毒、一、除
多、中、付、金、身、之、白、之、物、金
水、成、何、能、何、之、金、何、之、

上ノ海防の爲に時を要する所
は海軍の増強に在りては固言
も其力主なる所を以て其旨を
付授けしを以て其旨を以て其旨を
之今も其旨を以て其旨を以て其旨を
海軍の増強に在りては固言
光りて其旨を以て其旨を以て其旨を

今其旨を以て其旨を以て其旨を

海軍の増強に在りては固言

平

御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

月減通有往來中より一斗に付たき
左より右に廻るに二斗に付たき

水井友房

二一

口之郡安原所

左邊の通有往來中より一斗に付たき
右邊の通有往來中より一斗に付たき
左邊の通有往來中より一斗に付たき
右邊の通有往來中より一斗に付たき

二一

口之郡安原所

水曜なる日

月夜の道 吟味はすききり来りて付
たふと海より来るもの 色も白
くしてはちとて優しきもの

二つと
吟味はすき

大正十三年

月夜の道 吟味はすききり来りて付
たふと海より来るもの 色も白
くしてはちとて優しきもの
月夜の道 吟味はすききり来りて付
たふと海より来るもの 色も白
くしてはちとて優しきもの

二

太通

刻源通記 卷之八 廣之部 終

六

卷之四

ちんちん

三

清江集

皇太后御賜小童詩卷
 皇太后御賜小童詩卷
 皇太后御賜小童詩卷

くらねにありけり

日之影道ありけり

・松らけり

・田井村ありけり

・松らけり

御坊村の長屋

のまゝにありけり

・松らけり

・松らけり

松小僧藏

大松屋

卷四

虎平

日村即藏片在陳三佳手能分以爲
入村日村即片在陳三佳手能分以爲
傳信而為足元仕漢文信市入念
了五鄭

村以自
其内村也

上落

高村清齋
 主石德修
 八金一
 二

新に名をいふと高きと云ふ
 今にわたりて一國を治むる
 城のありて今にわたりて
 小増ともありて高きと云ふ
 所なりしと云ふは信なり
 一

智 徳
 その田
 大村
 御坊村
 有也

吉村は後道より運上張分初田
 中一畝を給ふと云ふ事なり
 有月より此の頃迄は田に水が満ち
 中より多量の水が流れて来る事あり
 多量の水が流れて来る事あり
 くらす 漸く又谷下

白河村
 大石より田
 の大村に在る也

0158



[illegible]

清時 田井
 其の 一々
 人々
 名々

御坊通へ此位紙に付て
御書物へ此位紙に付て
御書物へ此位紙に付て

御坊通へ此位紙に付て
御書物へ此位紙に付て

御坊通へ此位紙に付て

御坊通へ此位紙に付て
御書物へ此位紙に付て
御書物へ此位紙に付て
御書物へ此位紙に付て
御書物へ此位紙に付て

あはれを三

少頃之 郭子

音記

余亦欣然

冬候

公之

弟

蘇子瞻詩云此石在天下無雙
作石名曰石中石

右刻

[illegible]

とまふりたるふりたる
けしき
とまふりたるふりたる
けしき
とまふりたるふりたる
けしき
とまふりたるふりたる
けしき

上巻
少巻
録
下

とまふりたるふりたる
けしき
とまふりたるふりたる
けしき
とまふりたるふりたる
けしき
とまふりたるふりたる
けしき
とまふりたるふりたる
けしき

上巻
少巻
録
下

三つふりてはるるなり
いふふりてはるるなり
いふふりてはるるなり
いふふりてはるるなり
いふふりてはるるなり

ふり付
いふ付
いふ付
いふ付
いふ付

いふふりてはるるなり
いふふりてはるるなり
いふふりてはるるなり
いふふりてはるるなり
いふふりてはるるなり
いふふりてはるるなり
いふふりてはるるなり
いふふりてはるるなり
いふふりてはるるなり
いふふりてはるるなり

いふ付

いふ付
いふ付
いふ付
いふ付
いふ付

為家傳記法後世者其人多
 有少者其傳中人多刻減其詞其詞
 全無所存其法後世者其人多
 刻減其詞其詞全無所存其法
 後世者其人多刻減其詞其詞
 全無所存其法後世者其人多
 刻減其詞其詞全無所存其法

新報 山 山 山 山
 山 山 山 山 山 山 山 山
 山 山 山 山 山 山 山 山

山 山 山 山 山 山 山 山
 山 山 山 山 山 山 山 山
 山 山 山 山 山 山 山 山

万葉集卷之五 日本書紀卷之五
 神代卷之五 日本書紀卷之五
 神代卷之五 日本書紀卷之五
 神代卷之五 日本書紀卷之五
 神代卷之五 日本書紀卷之五
 神代卷之五 日本書紀卷之五

神代卷之五 日本書紀卷之五
 神代卷之五 日本書紀卷之五
 神代卷之五 日本書紀卷之五
 神代卷之五 日本書紀卷之五
 神代卷之五 日本書紀卷之五

神代卷之五

神代卷之五 日本書紀卷之五
 神代卷之五 日本書紀卷之五
 神代卷之五 日本書紀卷之五
 神代卷之五 日本書紀卷之五
 神代卷之五 日本書紀卷之五

名村のまゝをふるまふ地を海濱といふ
 松合のりふり以松山松原より松代へ
 別紙の中へ住居の付松代より松原
 へ第一松原より松代へ松合松原より
 松合より一連なる松代より松原へ
 郡中一町といふ人なる松原なる松合
 松合なる松原のり松代へ松原へ

松原のり

松原のり

松原のり松原のり松原のり
 松原のり松原のり松原のり

松原のり



郡中より給合
 其ノ地ニ希力人
 初村頃人此ノ地ニ
 其ノ地ニ希力人

金太郎殿

其ノ地ニ希力人
 其ノ地ニ希力人
 其ノ地ニ希力人
 其ノ地ニ希力人
 其ノ地ニ希力人

其ノ地ニ希力人
 其ノ地ニ希力人

此の世に生れし者其の心は
ちとちとて此の世に生れし者
の心はちとちとて此の世に
生れし者の心はちとちとて

了

清人の心

0169

御坊村文書 文書番号

010

3m 21 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

C88.01
G1
1-9

御用
御用
御用



0110



0170

御坊村文書

文書
番号

010





0171

御坊村文書

文書
番号

010

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24